

## 平成 31 年度入学式 学長式辞

はじめに、ご多用にも拘わらず、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様に心より御礼申し上げます。また、保護者の皆様にも高い席からではございますが、心からお祝い申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。数多くある大学の中で本学への入学を決められました事、心から歓迎いたします。これまで大学が受験生を選抜しておりましたが、今や、皆さんが大学を選ぶ時代になりました。その意味でも本日ここに皆様をお迎えする事が出来ました事を大変嬉しく思っている次第です。

平成 30 年が終わり、これからはいよいよ新元号「令和」になります。皆さんは新元号の記念すべき入学生です。どんな新入生であるのか、どんな潜在的能力を持っているのか大変楽しみであり期待も膨らみます。

これまでの平成は、様々な災害に見舞われた 30 年がありました。一番良かったことは天皇陛下のお言葉にもありましたが、日本にとって一度も戦争に拘わることがなく済んだことではないでしょうか。昭和 21 年以降平成の 30 年の間一度も戦争によって国や人が破壊されるという悲惨な事がなく、災害を除けば、平和に暮らせたことは諸外国と比べ、何よりも幸せな事でした。しかし、新元号になり、世界の動きの激しさにどんな世の中になっていくのかと、少しの不安もあります。

不安と言えば、新入生の皆さんはこれから始まる大学生活に多少の不安を持っているのではないでしょうか。その不安を解消する一つの方法は、まずはしっかりと目標を持つことです。

本学にどんな目標を持って入学なさったのでしょうか。将来のために学問を志している方、スポーツ活動を精一杯取り組みたい方、資格を取得したい方など様々であると思われます。どんな目標であっても主体性を持って行動する事です。これまで親や高校の恩師、あるいは先輩の指示で動いていたかも知れません。しかし、これからは自分の意思をしっかりと持ち、自分が掲げた目標に向かって諦めず、行動をすることでき前進できます。周囲の協力は勿論ですが、失敗も成功も自分自身で受け止める強さを持ってほしいと言うことです。

大学院に進学なさいました皆さん、皆さんはこれまで 16 年間と長い学業生活をしてきましたが、さらに 2 年間の大学院生活を選んだ理由は何でしょうか。将来への希望は何か、あるいはどんな研究課題を持っているのかと期待もあれば、少しの不安もあります。

特に本学から進学したさんは卒業生としての甘えがあるのではないかという不安です。そもそも、大学教育は幅広い教育と、学術研究の成果に基づく教育によって行われるものとされています。大学院に入学されるさんは、教養を身につけ、その上に高い専門性を身につけて頂き、将来へ繋げて頂きたいと思います。そのことを成就するには 2 年間は決して長くはなく、むしろ短すぎると思います。時間を大切に使い、指導教官との研究を充実させ立派な修士論文を仕上げて頂きたいと願っております。

す。

本学は1922年に創立され、これまで約4万5千人以上の卒業生を送り出しており、2022年には100周年を迎えることになります。

創立者二階堂トクヨ先生は、大正元年に文部省より命をうけてイギリスに2年間留学されました。その2年間に学ばれたことが本学の建学の精神になっています。トクヨ先生の学ばれた、イギリスのオスター・バーグ・フィジカル・トレーニング・カレッジは創立者のオスター・バーグ没後100余年が経ちますが、建物が現存しており、同窓会が創立者の顕彰をしております。また、留学生であったトクヨ先生の事がアーカイブとして残されており、本学としても大変名誉な事だと思っております。

トクヨ先生は女子の教育、特に女子体育によって健康で明るい生活がおくれることをねらいとし、その指導者の育成に尽力しました。その甲斐あって、本学の卒業生は教員や生涯スポーツをはじめ、多様な分野でリーダーとして活躍しております。

また、本学は1993年には大学院が開設され、スポーツ医科学、健康スポーツ学や運動学、舞踊学そして幼児発達学に関する分野の優秀な教授陣を擁し、各分野で活躍できる人材を輩出しております。附属施設であります基礎体力研究所ではスポーツ科学の基礎となる研究を行い、得られた知見を国内外に配信しています。この環境を有意義なものとし、皆さんには是非スポーツを科学する事の取り組みを期待します。

さて、いよいよ来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。日本開催が決定し、はやくも来年が開催年となります。

皆さんはオリンピックにどんな期待があるでしょうか。選手として出場したい、あるいはボランティアで活動したい、また自分の興味あるスポーツ種目を観戦したいなど様々でしょう。いずれにしても日本での開催ですから皆さんの肉眼と心の目でしっかりと選手達の活動・活躍を見てほしいと思います。映像を通して観るよりも、弛まぬ努力をしている選手一人ひとりの動き様に必ずや感動する事でしょう。

オリンピック選手と言えば、本学の卒業生にも活躍した方は沢山居られますが、特に紹介したい方の一人として、1928年第9回のアムステルダム・オリンピックに出場し、800メートルで銀メダルを獲得した、日本初の女性メダリスト・人見絹枝さんです。

彼女は本来100メートルに打ち込んで頑張っていたのですが、予選で敗してしまったのです。しかし、「このまま君が代も聞かず日本に帰れない」と、走ったこともない800メートルに挑戦し、銀メダルを獲得する訳です。これはいわゆるスポーツ選手の「諦めない精神」によるところの快挙です。スポーツ選手を目指す方はこの様な立派な先輩に続いてくれる事を期待します。

話は変わって、本学はこれまで、2学科4専攻の学修体制でしたが、来年からは4学科としてそれぞれの分野がさらに専門的な学問を追求できるよう、現在、文部科学省に学科申請中であります。

正式に認可されると、スポーツ科学科、ダンス学科、健康スポーツ学科、子ども運動学科の4学科になります。

スポーツ科学科は、スポーツ科学の理論と方法を基礎から応用まで実践的に学び、

健康スポーツ学科は、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るために必要な指導プログラムの学修をします。

ダンス学科は、まさしく創る・踊る・観るというダンスの実践的な活動を発展的に学修します。また、国内の大学では初の設置となるため、本学の特徴の一つと言えます。

子ども運動学科に関しては、子どもの運動に関する理論と保育に関する実践を学ぶことが出来る学科であり、現在の幼児や子供の置かれている環境を改善するためにも有意義な学科と言えます。

この様に本学は4学科として社会のニーズに対応できる大学として更なる発展を目指しております。

本日入学した皆さん、大学・大学院に入学したからには好奇心と向上心を持ち、多くの教授陣と積極的に触れ合い、その先生方の持っている知識を盗むがごとく吸収し、後悔のない学生生活を過ごしてほしいと思います。大学の教職員はそういう皆さんを心からサポートして行きます。

最後になりましたが、

これから約2年間・4年間は健康に留意して充実した学生生活になることを願って学長式辞といたします。

平成31年4月3日

日本女子体育大学  
学長 石崎 朔子